



INIT コマンド

この章では、Cisco ONS 15454、ONS 15327、ONS 15310-CL、ONS 15310-MA、および ONS 15600 の initialize (INIT) コマンドについて説明します。

15.1 INIT-REG-<MOD2>

(Cisco ONS 15454、ONS 15327、ONS 15310-CL、ONS 15310-MA、ONS 15600) 10GFC、10GIGE、1GFC、1GFICON、2GFC、2GFICON、CLNT、DIVIDEO、DS1、DV6000、E1、E3、E4、EC1、ESCON、ETRCLO、FSTE、G1000、GFPOS、GIGE、HDTV、ISC1、OC12、OC192、OC3、OC48、OCH、OMS、OTS、POS、STS1、STS12C、STS18C、STS192C、STS24C、STS36C、STS3C、STS48C、STS6C、STS9C、T1、T3、VC12、VC3、VT1、VT2 の Initialize Register (INIT-REG-<MOD2>) コマンドは、Performance Monitoring (PM; パフォーマンス モニタリング) レジスタを初期化します。

使用上のガイドライン

プラットフォーム別にサポートされる修飾子については、[表 27-1 \(p.27-1\)](#) を参照してください。



(注)

- 期間は、常に現在の期間で、前の期間でのカウントはクリアされません。したがって、このコマンドでは、MONDAT も MONTM もサポートされません。
- 特に指示がないかぎり、DS1 カードは RCV および TRMT 方向をサポートする唯一のカードです。
- INIT-REG-<MOD2> は、Remote Monitoring (RMON) 管理対象の未加工データを初期化するためにも使用されます。

カテゴリ

パフォーマンス

セキュリティ

プロビジョニング

入力形式

```
INIT-REG-<MOD2>:[<TID>]:[<AID>:<CTAG>::<MONTYPE>],[<LOCN>],[<DIRN>],[<TMPER>][,];
```

入力例 : INIT-REG-OC3:CISCO:FAC-1-1:1234::CVL,,NEND,BTH,15-MIN;

入力パラメータ

<AID>	アクセス ID (「25.1 ALL」 [p.25-2] を参照)。すべての STS、VT1、ファシリティ、および DS1 AID がサポートされます。
<MONTYPE>	モニタ対象のタイプ。パラメータ タイプ は、ALL_MONTYPE (モニタ対象タイプのリスト) です。
• AISSP	Alarm Indication Signal (AIS; アラーム表示信号) の秒数 — パス
• ALL	使用可能なすべての値
• BBE-PM	OTN — バックグラウンドブロック エラー — パス モニタ ポイント
• BBE-SM	OTN — バックグラウンドブロック エラー — セクション モニタ ポイント
• BBER-PM	OTN — バックグラウンドブロック エラー率 — パス モニタ ポイント (パーミル値)
• BBER-SM	OTN — バックグラウンドブロック エラー率 — セクション モニタ ポイント (パーミル値)
• BIEC	FEC — ビット エラー修正済み
• CGV	8B10B — コード グループ違反
• CSSP	制御スリップ秒数 — パス (DSXM-12 FDL/T1.403 PM カウント)
• CVCPP	コーディング違反 — CP ビットパス
• CVL	コーディング違反 — 回線
• CVP	コーディング違反 — パス
• CVS	コーディング違反 — セクション
• CVV	コーディング違反 — セクション
• DCG	8B10B — データ コードグループ
• ESAP	エラー秒タイプ — A パス (DS3XM-12 DS1 PM カウント)
• ESBP	エラー秒タイプ — B パス (DS3XM-12 DS1 PM カウント)
• ESCPP	エラー秒数 — CP — ビットパス
• ESL	エラー秒数 — 回線
• ESNPFE	エラー秒数 — ネットワーク パス (DS3XM-12 DS1 PM カウント)
• ESP	エラー秒数 — パス
• ES-PM	OTN — エラー秒数 — パス モニタ ポイント
• ES-SM	OTN — エラー秒数 — セクション モニタ ポイント
• ESR	エラー秒数 — 率
• ESR-PM	エラー秒数率 — パス モニタ ポイント (パーミル値)
• ESR-SM	エラー秒数率 — セクション モニタ ポイント (パーミル値)
• ESS	エラー秒数 — セクション
• ESV	エラー秒数 — VT パス
• etherStatsBroadcastPkts	受信したマルチキャスト アドレス宛ての良好パケット数合計
• etherStatsCollisions	衝突する伝送パケット数
• etherStatsCRCAlignErrors	長さが 64 ~ 1518 オクテット (フレーム構成ビットを除く、ただし FCS オクテットは含む) の受信パケット数の合計
• etherStatsDropEvents	ポート レベルで廃棄された受信フレーム数
• etherStatsFragments	受信した 64 オクテット未満のパケット数の合計
• etherStatsJabbers	受信した 1518 オクテット超のパケット数の合計
• etherStatsOctets	データのオクテット数の合計

• etherStatsOversizePkts	受信した 1518 オクテット超の packets 数の合計
• etherStatsPkts	受信した packets 数の合計 (不良 packets、ブロードキャスト packets、マルチキャスト packets を含む)
• etherStatsUndersizePkts	受信した 64 オクテット未満の packets 数の合計
• FCP	障害発生回数 — 回線
• FC-PM	OTN — 障害カウント — パス モニタ ポイント
• FC-SM	OTN — 障害カウント — セクション モニタ ポイント
• HP-AR	アベイラビリティ率
• HP-BBE	高次パスのバックグラウンドブロック エラー
• HP-BBER	高次パスのバックグラウンドブロック エラー率
• HP-EB	高次パスのエラー ブロック
• HP-ES	高次パスのエラー秒数
• HP-ESA	高次パスのエラー秒数 — A
• HP-ESB	高次パスのエラー秒数 — B
• HP-ESR	高次パスのエラー秒数率
• HP-FC	高次パスの障害カウント
• HP-NPJC-PDET	高次パスの負のポインタ位置調整カウント
• HP-NPJC-PGEN	高次パス、負のポインタ位置調整カウント
• HP-OI	停止強度
• HP-PJCDIFF	高次パスのポインタ位置調整カウントの差異
• HP-PJCS-PDET	高次パスのポインタ位置調整カウント
• HP-PJCS-PGEN	高次パスのポインタ位置調整カウント秒数
• HP-PPJC-PDET	高次パスの正のポインタ位置調整カウント
• HP-PPJC-PGEN	高次パス、正のポインタ位置調整カウント
• HP-SEPI	使用可能時間内の SEP イベント数
• HP-SES	高次パスの重大エラー秒数
• HP-SESR	高次パスの重大エラー秒数率
• HP-UAS	高次パスの使用不可秒数
• ifInBroadcastPkts	前回のカウンタ リセット以降、受信したブロードキャスト packets 数
• ifInDiscards	着信 packets 数
• ifInErrorBytePktss	受信エラー バイト
• ifInErrors	エラーを含む着信 packets (または伝送ユニット) 数
• ifInFramingErrorPkts	受信フレーム構成エラー
• ifInJunkInterPkts	受信インター packets ジャンク
• ifInMulticastPkts	前回のカウンタ リセット以降、受信したマルチキャスト packets 数
• ifInOctets	前回のカウンタ リセット以降、伝送されたバイト数
• ifInUcastPkts	前回のカウンタ リセット以降、受信したユニキャスト packets 数
• ifOutBroadcastPkts	伝送されたブロードキャスト packets 数
• ifOutDiscards	送信 packets 数
• ifOutErrors	エラーのため伝送できなかった送信 packets (または伝送ユニット) 数
• ifOutMulticastPkts	伝送されたマルチキャスト packets 数
• ifOutPayloadCrcErrors	受信ペイロード Cyclic Redundancy Check (CRC; 巡回冗長検査) エラー

• ifOutUcastPkts	伝送されたユニキャスト パケット数
• IOS	8B10 — アイドル順序セット
• IPC	無効なパケット カウント
• LBCL-AVG	平均レーザー バイアス電流 (μA)
• LBCL-MAX	最大レーザー バイアス電流 (μA)
• LBCL-MIN	最小レーザー バイアス電流 (μA)
• LBCN	正規化された OC3-8 レーザー バイアス電流
• LBCN-HWT	レーザー バイアス電流
• LBCN-LWT	レーザー バイアス電流
• LOSSL	Loss of Signal (LOS; 信号損失) 秒数 — 回線
• LP-BBE	低次パスのバックグラウンドブロック エラー
• LP-BBER	低次パスのバックグラウンドブロック エラー率
• LP-EB	低次パスのエラー ブロック
• LP-ES	低次パスのエラー秒数
• LP-ESA	低次パスのエラー秒数 — A
• LP-ESB	低次パスのエラー秒数 — B
• LP-ESR	低次パスのエラー秒数率
• LP-FC	低次パスの障害カウント
• LP-NPJC-DET	低次の負のポインタ位置調整カウント、検出
• LP-NPJC-GEN	低次の負のポインタ位置調整カウント、生成
• LP-PPJC-DET	低次の正のポインタ位置調整カウント、検出
• LP-PPJC-GEN	低次の正のポインタ位置調整カウント、生成
• LP-SEP	低次パスの重大エラー時間
• LP-SEPI	低次パスの重大エラー期間強度
• LP-SES	低次パスの重大エラー
• LP-UAS	低次パスの使用不可秒数
• MS-PSC	保護スイッチ カウント
• MS-PSD	保護スイッチ時間
• NIOS	8B10B — 非アイドル順序セット
• NPJC-PDET	NPJC-PDET : 負のポインタ位置調整
• NPJC-PGEN	NPJC-PGEN : 負のポインタ位置調整
• OPR-AVG	平均受信パワー (1/10 μW)
• OPR-MAX	最大受信パワー (1/10 μW)
• OPR-MIN	最小受信パワー (1/10 μW)
• OPRN	正規化された OC3-8 光受信パワー
• OPRN-MAX	OPRN の最大値
• OPRN-MIN	OPRN の最小値
• OPT-AVG	平均送信パワー (1/10 μW)
• OPT-MAX	最大送信パワー (1/10 μW)
• OPT-MIN	最小送信パワー (1/10 μW)
• OPTN	OC3-8 カードの正規化された光送信パワー値
• OPTN-MAX	OPTN の最大値
• OPTN-MIN	OPTN の最小値
• OPWR-AVG	光パワー — 平均間隔値 (1/10 dBm)
• OPWR-MAX	光パワー — 最大間隔値 (1/10 dBm)
• OPWR-MIN	光パワー — 最小間隔値 (1/10 dBm)
• PPJC-PDET	PPJC-PDET : 正のポインタ位置調整

• PPJC-PGEN	PPJC-PGEN : 正のポインタ位置調整
• PSC	保護スイッチング カウント
• PSC-R	保護スイッチング カウント — リング
• PSC-S	保護スイッチング カウント — スパン
• PSC-W	保護スイッチング カウント — 現用
• PSD	保護スイッチング時間
• PSD-R	保護スイッチング時間 — リング
• PSD-S	保護スイッチング時間 — スパン
• PSD-W	保護スイッチング時間 — 現用
• SASCPP	重大エラー フレーム構成 /AIS 秒数 — CP ビット パス
• SASP	重大エラー フレーム構成 /AIS 秒数パス
• SEFS	重大エラー フレーム構成秒数
• SEFSP	重大エラー フレーム構成秒数 — パス (DS3XM-12 DS1 PM カウント)
• SESCOPP	重大エラー秒数 — CP ビット パス
• SESL	重大エラー秒数 — 回線
• SESNPFE	重大エラー秒数 — ネットワーク パス (DS3XM-12 DS1 PM カウント)
• SESP	重大エラー秒数 — パス
• SES-PM	OTN — 重大エラー秒数 — パス
• SESR-PM	OTN — 重大エラー秒数率 — パス モニタ ポイント (パーミル値)
• SESR-SM	OTN — 重大エラー秒数率 — セクション モニタ ポイント (パーミル値)
• SESS	重大エラー秒数 — セクション
• SES-SM	OTN — 重大エラー秒数 — セクション モニタ ポイント
• SESV	重大エラー秒数 — VT パス
• UASCPP	使用不可秒数 — CP ビット パス
• UASL	使用不可秒数 — 回線
• UASNPFE	使用不可秒数 — ネットワーク パス (DS3XM-12 DS1 PM カウント)
• UASP	使用不可秒数 — パス
• UAS-PM	OTN — 使用不可秒数 — パス モニタ ポイント
• UAS-SM	OTN — 使用不可秒数 — セクション モニタ ポイント
• UASV	使用不可秒数 — VT パス
• UNC-WORDS	Forward Error Correction (FEC; 前方エラー訂正) — 訂正不能ワード
• VPC	有効パケット カウント
<LOCN>	AID によって識別されるエンティティに関する特定のコマンドに関連付けられた場所。パラメータタイプは LOCATION で、アクションが発生する場所です。
• FEND	アクションは、ファシリティの遠端で発生します。
• NEND	アクションは、ファシリティの近端で発生します。
<DIRN>	AID により識別されるエンティティに関連する方向。デフォルトは ALL です。PM の方向にかかわらず、すべてのレジスタを初期化します。パラメータタイプは DIRECTION (送受信の方向) です。
• BTH	送信および受信の両方向

• RCV	受信方向のみ
• TRMT	送信方向のみ
<TMPER>	パフォーマンス カウンタの累積期間。ヌル値の場合は、デフォルトで 15-MIN になります。デフォルトは 15-MIN です。パラメータ タイプは、TMPER (パフォーマンス マネジメント センターの累積期間) です。
• 1-DAY	パフォーマンス パラメータ累積間隔：24 時間単位。SONET PM データの場合、1 日分の履歴データだけが使用可能です。RMON 管理対象 PM データの場合、7 日間の履歴データが使用可能です。
• 1-HR	パフォーマンス パラメータ累積間隔：1 時間単位。RMON 管理対象 PM データにだけ適用されます。24 時間の履歴データが使用可能です。
• 1-MIN	パフォーマンス パラメータ累積間隔：1 分単位。RMON 管理対象 PM データにだけ適用されます。60 分間の履歴データが使用可能です。
• 15-MIN	パフォーマンス パラメータ累積間隔：15 分単位。この累積間隔では、32 個の 15 分バケットの履歴データが使用可能です。
• RAW-DATA	パフォーマンス パラメータ累積間隔。カウンタが最後にクリアされたときから開始されます。RMON 管理対象 PM だけに適用されます。

15.2 INIT-SYS

(Cisco ONS 15454、ONS 15327、ONS 15310-CL、ONS 15310-MA、ONS 15600) Initialize System (INIT-SYS) コマンドは、指定のカードとそれに関連するサブシステムを初期化します。

使用上のガイドライン

- SLOT-ALL AID および リスト AID は、このコマンドでは使用できません。
- このコマンドでは、ONS 15454 および ONS 15327 の場合、1 レベルの再起動のみがサポートされています。
- このコマンドを、アクティブになっている TCC2/TCC2P で送信するとき、その前にスタンバイ TCC2/TCC2P が起動されており、一定期間完全なスタンバイ状態になっていることが重要です。この期間中に、タイミング中断または他の原因でトラフィックが停止すると、システムの動作が不定になります。
- ONS 15310-CL では、15310-CL-CTX、CE-100T-8、および ML-100T-8 カードの RESTAT パラメータだけがサポートされています。
- ONS 15600 は、Pluggable IO Module (PIM) でのソフトリセットをサポートしていません。
- カードをハードリセットする場合、OOS-MA、MT; OOS-MA、DSBLD; OOS-AUMA、MT; OOS-AUMA、DSBLD のいずれかのステートでなければなりません。

カテゴリ

システム

セキュリティ

メンテナンス

入力形式

INIT-SYS:[<TID>]:<AID>:<CTAG>::<PH>[,<CMDMDE=CMDMODE>];

入力例 :

INIT-SYS:HOTWATER:SLOT-8:201::1,CMDMDE=FRCD;

入力パラメータ

<AID>	アクセス ID (「25.14 EQPT」 [p.25-32] を参照)
<PH>	フェーズ。PH は、ONS 15600 および ONS 15310-CL では必須パラメータです。ONS 15327 ではサポートされていません。ONS 15454 の CE-100T-8 ではサポートされています。フェーズは整数です。
• 1	ソフトリセット
• 2	ハードリセット
<CMDMDE>	コマンドモード。ユーザは安全チェックを無効にできます。CMDMDE は、ONS 15600 ではオプションで、デフォルトは NORM です。ONS 15454、ONS 15327、ONS 15310-CL ではサポートされていません。パラメータタイプは CMDMDE (持続状態に関係なく、指定されたコマンドを強制的に実行する) です。デフォルトでは、すべてのコマンドは NORM モードで動作します。ただし、FRCD を指定して、通常であればコマンドが拒否されるステートを強制的に無効にできます。
• FRCD	通常であればコマンドが拒否されるステートを強制的に無効にします。
• NORM	コマンドを通常どおりに実行します。コマンドを失敗させる可能性のある状態は無効にしません。

